

平成 30 年 6 月 8 日現在

機関番号：16102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370724

研究課題名(和文)小中連携を意図した『Hi, friends!』に準拠した聴解力テストの開発と運用

研究課題名(英文)On the Development and Use of Listening Comprehension Based on the Textbooks "Hi, friends! 1,2" for the Cooperation Between Elementary Schools and Junior High Schools

研究代表者

石濱 博之 (Ishihama, Hiroyuki)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：00223016

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：小学校外国語活動で使用されている『Hi, friends! 1・2』に準拠した聴解力テストを開発し、運用することであった。次に、小中連携を円滑に推進するために中学校入門期の聴解力テストの開発とその運用することになった。

『Hi, friends! 1・2』の聴解力テストによる調査結果では、聴解力で一対一の問いに対しては児童は回答できるが、概要をとらえる内容を聞き取るトップダウン処理は難しい。次に、小中連携のための中学校入門期の聴解力テストを開発し、その運用をした。その結果は、『Hi, friends! 1・2』で小学校で学習された項目は学習成果が見られたが、トップダウン処理は今後の課題である。

研究成果の概要(英文)：The purposes of this research are to report on the development of listening comprehension tests based on the Textbooks "Hi, friends! 1" and "Hi, friends! 2", and a listening comprehension test integrated with the Textbooks "Hi, friends! 1" and "Hi, friends! 2" for first-year junior high school students, as well as to show the listening comprehension ability of fifth, sixth and seventh graders. We attempt to develop listening comprehension tests to measure how fifth, sixth, and seventh graders acquire their listening comprehension ability.

As a result, our comprehension tests can be considered as an achievement test. The results of the tests also gave us the opportunity to improve our lessons. The analysis of the data shows that "bottom-up listening" is easy for pupils, but that it is difficult for pupils to listen to summaries of the contents. We need to construct our lessons so as to improve pupils' "top-down listening" abilities.

研究分野：小学校英語教育

キーワード：聞くこと 聴解力 外国語活動 テスト開発 評価 小中連携 ボトムアップ処理 トップダウン処理

1 . 研究開始当初の背景

現在、小学校外国語活動の評価では、授業観察や児童の自己評価や他者評価を用いることが多い。主に、児童の学習意欲や活動への積極性を評価している。しかし、学習指導要領の3つの柱の一つは「外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる」こととなっていることから、『Hi, friends!1・2』の話題や言語材料に関連して、児童が実際に聴く力をどの程度身につけているかを測定する必要がある。そこで聴解力テストの開発が期待されている。外国語活動では、聴解力は他のスキルを支える基礎スキルと考えられている。従って、基礎スキルである「聞くこと」を測定する準拠テストの開発が必要とされる。聴解力に焦点をあてて、外国語活動と中学校英語教育の連携を円滑に推進することも可能である。そして、教員養成を目的とする大学等、教育委員会、及び地域の学校が協力・連携すれば、児童の聴解力及び聴解力と情意面との関係を検証して、学校教育現場によりよい指導法を提供できると考えられる。

2 . 研究の目的

本研究のねらいは、第1に教材『Hi, friends!1・2』に準拠した聴解力テストを開発することにある。第2に、その開発した聴解力テストを活用して、児童が学習内容をどの程度学んだかについて明らかにすることにある(運用)。具体的に、5年生用の教材『Hi, friends!1』、及び6年生用の教材『Hi, friends!2』を1年間学んだ児童が、聴解力の観点から授業で学んだ内容をどの程度身につけているかを測定・評価する。第3に、小中連携を円滑に推進するために中学校入門期の聴解力テストの開発とその運用をすることにある。

3 . 研究の方法

平成26年度は、聴解力に関する文献の収集、諸外国の評価に関する事例調査を実施することによって、教材『Hi, friends!1・2』に準拠した聴解力テストを開発する。そして、その聴解力テストに基づく予備調査を実施し、聴解力テストの問題点を改善する。また、児童の情意面に関する調査も同時に実施する。

平成27年度は、平成26年度の研究を踏まえて、公立小学校で『Hi, friends!1・2』(その他 冊子 参照)に準拠した聴解力テストを実施する。その際、情意面に関する調査も実施する。中学校入門期に実施する教材『Hi, friends!1・2』の内容をまとめた聴解力テストの構想を練る。

平成28年度は、公立小学校で、『Hi, friends!1・2』の聴解力テストを利用して、聴解力の経年の変容を調査する。

平成29年度は、中学校入門期の聴解力テスト(その他 冊子 参照)を使用して、中

学校入学時の聴解力調査を実施し、その経過をまとめる。

4 . 研究成果

(1) 聴解力テストの開発

教材『Hi, friends! 1』に準拠した聴解力テストの開発

『Hi, friends! 1』(文部科学省, 2012)の話題と言語材料に照応した聴解力テストは7種類の問題で構成した(図1, その他の 冊子参照)。そして、7種類の問題に対する理解力の程度を評価するために、問題ごとに具体的な評価の観点を定めた(表1)。

表1 問題別観点

問題	数	観点
問題 1	3	基本的な「自己紹介」を聞いて、相手の国と言語が理解できるか。
問題 2	4	日常の挨拶の交換の様子を聞いて、話している人たちの健康や気分の様子が理解できるか。
問題 3	5	授業で使われる頻度が高い5つのカタカナ語を取り上げ、英語らしい発音を特定することができるか。 chocolate, banana, pineapple, calendar, piano
問題 4	8	How many? の問とその答え方がわかるか。 果物や野菜の名前が分かり、その数量も正しく把握できているか。 apples, strawberries, tomatoes, carrots
問題 5	8	花子と太郎についての簡単な説明を聞いて、話の内容を正しく理解できているか。 ・好きか嫌いかの英語表現を理解できているか。 ・動物やスポーツについての英語の単語を理解できているか。
問題 5	5	アメリカ人と日本人の生徒のやや長い対話を聞いて、二人につい

6 ての情報を正しく理解できているか。

二人の会話がどこの場所で行われているか、どのような物を購入したか、その値段がいくらか、既習した様々な言語材料を使って、その話の内容を理解できているか。

《問題 2》

だれがどんな様子ですか、線で結びましょう。

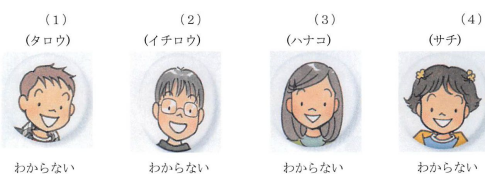


図1 問題2の例(その他 冊子 参照)

教材『Hi, friends! 2』に準拠した聴解力テストの開発

『Hi, friends! 2 指導編』(文部科学省, 2012)の単元構成を参考にしながら、6種類の問題にそれぞれねらいとする観点を設定した(表2)。問題の形式については、問題1から問題5までは多肢選択法であり、問題6は真偽法である。『Hi, friends! 2 指導編』の話題と言語材料に照応しながら具体的に記述した(図2, その他 冊子 参照)。

表2 問題別観点

問題	数	観点
問題1	10	アルファベットの名前を聞いて、その文字を理解しているか。
問題2	10	『Hi, friends! 2』で出現した単語について、発音を聴いて理解しているか。
問題3	10	授業で学習した基本的な表現の内容を理解しているか。

将来の夢の英語表現を理解しているか。

問題4 花子, 太郎, 二郎の会話を聞いて、話の内容を正しく理解しているか。

・(自分の)将来の夢の内容を理解して、適切に応答しているか。

一日の生活の表現を理解しているか。

問題4 一日の生活を聞いて、話の内容を正しく理解しているか。

問題5 ・(自分の)就寝の時刻の内容を理解して、適切に応答しているか。

誕生日の表現を理解しているか。

問題5 アメリカ人と日本人の児童のやや長い対話を聞いて、二人についての情報を正しく理解しているか。

《問題 4》

(1) 次の英語の会話を聞いて、正しいもの(関係するもの)を線で結びましょう。



(2) 質問の答えを書きましょう。日本語で書いてもよいです。

() わからない

図2 問題4の例(その他 冊子 参照)

中学校入門期聴解力テスト(『Hi, friends! 1・2』聴解力テスト統合型)の開発

『Hi, friends! 1・2 指導編』(文部科学省, 2012)の単元構成を参考にしながら、中学校入門期向けの5種類の問題にそれぞれねらいとする観点を設定した(表3)。『Hi, friends! 1・2 指導編』の話題と言語材料に照応しながら具体的に記述した(図3, その他 冊子 参照)。

表3 問題別観点

問題	数	観点
問題 1	10	アルファベット文字の音声を聞いて、正しい文字が認識できるか。
問題 2	10	英語の単語を聞いて、その意味を正しく連想したり、該当する日本語を正しく認識したりできるか。
問題 3	8	二人の短い会話を聞いて内容が正しく理解できるか
問題 4	4	やや長く、思考を要する対話を聞いて、内容を正しく理解できるか。
問題 5	6	二人の長い会話を聞いて、その内容を正しく理解できるか。

《問題 5》

アメリカ人のジョンと日本人の久美(くみ)が話しています。よく聞いて、1) ~ 6)の内容のうち、正しいものを3つ選び、○を()の中に書いてください。

1) 久美はとても元気です。	()
2) 今日は久美の誕生日です。	()
3) ジョンと太郎(たろう)は、久美の誕生日に招待されています。	()
4) 久美は、誕生日プレゼントをお断りしました。	()
5) ジョンは太郎と相談して、誕生日プレゼントを決めると言っています。	()
6) 久美の誕生日プレゼントに、ジョンと太郎は、別々のプレゼントを持っていくようだ。	()

図3 問題5の例(その他 冊子 参照)

(2) 運用結果

教材『Hi, friends! 1』に準拠した聴解力テストの運用結果

運用結果を概略すると、1) 調査時期は、平成 26 年 3 月に実施した。2) 実施校は、N 県と O 府の 4 つの公立小学校であった。3) 参加者は、高学年の 5 年生で 220 名であった。4) 開発した聴解力テストと情意面を測定する調査用紙(その他 冊子 参照)を使用した。

平均は総点 36 点中 26.75 点であった。全体の正答率は 74.3% であった。正答率から判断すると、正答率のよい順に並べると、問題 4、問題 3、問題 2、問題 1、問題 5、問題 6、問題 7 の順となる。問題 4 の正答率は、87.0% であり、その逆に、問題 7 の正答率は、51.7%

であった。児童は、数と事物(果物や野菜)を理解したと考えられる。その反対に、問題 7 は数や事物を扱っているが、文房具屋さんを類推しにくいかもしれない。児童は日本語のシャープペンシルはわかっているかもしれないが、英語で“mechanical pencil”が何であるかわからないと推察される。

開発した『Hi, friends! 1』に準拠した聴解力テストは一つの到達度テストとしての役割を担うであろう。公立小学校で 35 時間の外国語活動の授業をした後、評価を考慮する上でこのような種類の聴解力テストが活用されてもよいだろう。指導者はその結果に基づき、次の授業を立案する際、配慮すべき点が明確となる。それが次の外国語活動の授業改善を図ることにつながる。指導方法の観点から、児童がまとまりのある話の内容や会話の概要を捉えることはむずかしい。概要を捉えるような「聞くこと」の指導を考慮することが必要であるとされた。

教材『Hi, friends! 2』に準拠した聴解力テストの運用結果

運用結果を概略すると、1) 時期は平成 26 年 3 月及び 4 月に実施した。2) 実施校は N 県と O 府と T 県の公立小学校、及び T 県の附属小学校であった。3) 参加者は、公立小学校の 6 年生(ただし、T 県の公立小学校と附属小学校から T 県の附属中学校に入学直後の新入生)である。合計で 347 名であった。4) 開発した聴解力テストと情意面を測定する調査用紙(その他 報告書参照)を使用した。

全体で平均は総点 43 点中 34.03 点であり、正答率は 79.01% であった。児童が正答した設問から判断すると、『Hi, friends! 2』の内容、及び授業で取り上げられている内容に対しては、児童は正答しやすい。正答率の高い順に並べると、問題 1、問題 5、問題 4、問題 2、問題 3、問題 6 の順であった。児童は、一問一答形式の設問には回答しやすいが、話の内容や会話の概要を捉えて回答することはむずかしい。概して、児童にとって、一問一答形式の“bottom-up listening”は可能であるが、概要を捉えて回答する“top-down listening”をするのは容易でない。また、問題 6 の形式のみ選択肢に絵を使用せず、文章を読ませた後に回答を求めた。児童は文章を読んで回答する方法に慣れていない。聴解力テストを改訂するならば、絵を使った回答欄にするとわかりやすいかもしれないとした。

中学校入門期聴解力テスト(『Hi, friends! 1, 2』聴解力テスト統合型)の運用結果

運用結果を概略すると、1) 調査時期は、平成 29 年 7 月に実施した。2) 実施校は、T 県の A 中学校のみであった。3) 参加者は、中学校 1 年生 100 名であった。4) 開発した聴解力テストと情意面を測定する調査用紙(その他 冊子 参照)を使用した。

平均は総点 35 点中 27.03 点であった。全体の正答率は 71.13%であった。正答率のよい順に並べると、問題 1, 問題 3, 問題 5, 問題 2, 問題 4 の順となる。問題 1 はアルファベットを認知する問題であったが、N (84.0%) 以外は 90%以上の正答であった。問題 3 と問題 2 に関しては、小学校で既習した単語などは正答率がよかった。問題 4 と問題 5 に関しては、特に問題 4 の概要を捉えるような問題から判断すると、概要をとらえる“top-down listening”は容易でない。概要をとらえる方略を指導する必要があるであろう。

開発した『Hi, friends! 1・2』の聴解力テストや中学校入門期聴解力テスト(『Hi, friends! 1, 2』聴解力テスト統合型)は、妥当性と信頼性を兼ね備えていたので一つの到達度テスト(achievement test)としての役割を担うであろう。その結果、小学校の指導では、外国語教育及び外国語活動の授業を指導した後に、本聴解力調査用紙を活用すれば、一つの評価の目安になるであろう。

3 種類の聴解力テストの結果から明らかになったことは、“bottom-up listening”は可能であるが、概要を捉えて解答する“top-down listening”をするのは容易でない。この観点から小学校では概要をとらえるような指導も必要であることが明らかとなった。

2018 年度(平成 30 年度)には、既に教科としての外国語(英語)や外国語活動のための教材としての『We can! 1・2』や『Let 's Try! 1・2』が配付されている。指導の後の児童の英語力(特に、聴解力)を評価すること、及び授業(指導)の授業を評価することのために、『We can! 1・2』や『Let 's Try! 1・2』内容を意図した聴解力を測定する評価テストの作成が必要になってくる。そのために、今回の聴解力テストを土台にして、次期の評価テストを作成することが重要である。

<引用文献>

- 文部科学省(2012). 『Hi, friends! 1』東京:東京書籍
文部科学省(2012). 『Hi, friends! 1 指導編』東京:東京書籍
文部科学省(2012). 『Hi, friends! 2』東京:東京書籍
文部科学省(2012). 『Hi, friends! 2 指導編』東京:東京書籍

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

渡邊時夫, 小学校英語教育の実践と評価 - 英語教育強化地域拠点事業・小諸市の試み -, 鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要, 査読無, 第 7 号, 2017, 1-9

石瀨博之, 渡邊時夫, 染谷藤重, 『Hi, friends! 1』に準拠した聴解力テストの開発とその応用結果に関する事例報告(2) - 改訂して聴解力テストの試み -, 小学校英語教育学会紀要, 査読有, 第 15 号, 2015, 18-33

石瀨博之, 渡邊時夫, 『Hi, friends! 2』に準拠した聴解力テストの開発とその応用結果に関する報告, 全国英語教育学会紀要 ALELE, 査読有, 第 26 号, 2015, 397-415

石瀨博之, 山崎晃市, 渡部良典, 「聞くこと」の指導と評価の一体化, 『英語教育』, 査読無, 第 64 巻第 9 号, 2015, 54-55

石瀨博之, 染谷藤重, 内山寿彦, 山崎晃市, 児童の聴解力はどのような家庭で促進されるか, 日本児童英語教育学会紀要, 査読有, 第 33 号, 2014, 55-72

[学会発表](計 6 件)

石瀨博之, 小学校外国語活動における児童の聴解力の変容について: 1 年間の外国語活動が聴解力に及ぼす影響, 第 29 回全国英語教育学会徳島研究大会, 2017 年 6 月 17 日, 鳴門教育大学(徳島県鳴門市)

渡邊時夫, 基調講演『4 小学校英語教育で 4 技能を統合化した指導とその評価』, 鳴門教育大学小学校英語教育センターシンポジウム, 2016 年 10 月 15 日, シビックセンターホール(徳島県徳島市)

石瀨博之, 渡邊時夫, 外国語活動における児童の聴解力と情意面との関係を探る - 『Hi, friends! 2』に準拠した聴解力テストを活用して -, 第 41 回全国英語教育学会熊本大会, 2015 年 8 月 22 日, 熊本学園大学(熊本県熊本市)

石瀨博之, 児童の聴解力と情意面との関係 - 『Hi, friends! 1』に準拠した聴解力テストを活用して -, 鳴門教育大学英語教育学会第 30 回大会, 2015 年 8 月 2 日, 鳴門教育大学(徳島県鳴門市)

石瀨博之, 渡邊時夫, 『Hi, friends! 2』に準拠した聴解力テストの開発とその応用結果に関する報告, 第 40 回全国英語教育学会徳島研究大会, 2014 年 8 月 9 日, 徳島大学(徳島県徳島市)

石瀨博之, 渡邊時夫, 『Hi, friends! 1』に準拠した聴解力テストの開発とその応用結果に関する事例報告(2), 第 14 回小学校英語教育学会神奈川大会, 2014 年 7 月 26 日, 関東学院大学(神奈川県横浜市)

〔図書〕(計0件)
出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

報告書

石瀨博之, 渡邊時夫, 中学校入門期聴解力テスト(『Hi, friends! 1, 2』聴解力テスト統合型), 冊子, 全17頁, 2017

石瀨博之, 渡邊時夫, 『Hi, friends! 1, 2』聴解力テスト, 冊子, 全16頁, 2016

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石瀨 博之 (ISHIHAMA, Hiroyuki)
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授
研究者番号: 00223016

(2) 研究分担者

渡邊 時夫 (WATANABE, Tokio)
信州大学・教育学部・名誉教授
研究者番号: 90109207

畑江 美佳 (HATAE, Mika)
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
研究者番号: 20421357

サーロー・ジョン (THURLOW, John)
聖霊女子短期大学・その他部局等・講師
研究者番号: 50299773

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

染谷 藤重 (SOMEYA, Fujishige)